令和４年10月　№335

学　校　だ　よ　り

中央区立京橋築地小学校
東京都中央区築地２丁目13番１号

「秋のスポーツ？スポーツの秋？」

副校長　中嶋　友晴

秋が近付くにつれ、スポーツ用品店やアウトドアショップには、色とりどりのウェアやシューズが並び始めます。お店のポスターやポップなどで、「スポーツの秋」を意識した言葉も見掛けますね。小さい頃から当たり前だと認識していたスポーツの秋ですが、どうして秋にスポーツなのか気になったとはありませんか？ 実は、秋だからこそできるというスポーツはありません。季節の言葉を取り入れている俳句の季語を調べてみると、スポーツとして当てはまる季語には「相撲」「運動会」があります。

スポーツと秋が結びついた一番の理由として挙げられるのは、1964 年に行われた東京オリンピックです。世界的なスポーツの祭典が日本で開催されることに、日本は全国的に大熱狂していました。当時の東京オリンピックは10月10日に開会され、24日に閉会式を迎えています。まさに、日本の秋まっさかりの時に行われたのです。

農業が全国的に盛んだった頃には、秋の稲刈りが終わる９月や10月頃が農閑期（農作業が忙しくない時期）だったので、地域ぐるみで運動会を盛り上げる姿も多く見られました。秋といえばスポーツという流れが定着したのも、昔の農閑期がうまくマッチングした結果なのかも知れません。

本校の「秋」は、今年度も「体育学習発表会」という形で各学年の体育学習の成果をご覧いただきます。まだまだ制約のある学習活動となっておりますが、できることを精一杯工夫して取り組んで参ります。子供たちの「スポーツの秋」をどうぞ見守っていただき、大きな声援は時節柄ご遠慮いただきますが、大きな拍手を送っていただければと思います。

１０月の行事予定

日	曜	主な行事予定
1	土	都民の日
2	日	体育学習発表会
3	月	振替休業日
4	火	
5	水	
6	木	縦割り班活動遊び②
7	金	安全指導
8	土	体育学習発表会予備日①
9	日	体育学習発表会予備日②
10	月	スポーツの日
11	火	避難訓練　５時間授業
12	水	研究授業のため４時間授業
13	木	
14	金	通知表配布日
15	土	
16	日	子どもフェスティバル
17	月	委員会　なわとびDAY
18	火	本栖移動教室事前健診
19	水	本栖移動教室始（６年）三越農業体験（４年）
20	木	
21	金	本栖移動教室終（６年）
22	土	
23	日	
24	月	読書旬間始　クラブ
25	火	読み聞かせ会
26	水	センター教室（４年）　環状２号線施設見学（１年）
27	木	環状２号線施設見学（３、４年）
28	金	校外学習（１年）　福祉体験（４年）
29	土	漢字検定
30	日	
31	月	校外学習（3年）　4年生以上6時間授業　環状2号線見学（6年）

食育について

養護教諭　　田口　瑞穂

本校の保健室は、給食室の向かいにあります。給食の時間が近付くと、いい匂いに誘われて、今日の給食について話す子供たちの声が廊下から保健室に響きます。給食を楽しみにしている気持ちは、変わりゆく世の中に反し、今も昔も変わっていないことを実感できる時間です。

保健給食委員会では、アンケートの実施やポスター作成を行い、１学期に３種類の中から飲み物を選べる「セレクト飲み物」、２学期にみんなの好きな給食のメニューを献立にした「リクエスト給食週間」を実施しました。給食時の感染症対策が続く中ですが、食育の原点である、楽しくおいしく食べる時間を増やしたいという思いで計画しました。

新しい生活様式を受けて、学校における食育も新しい形が求められています。静かに食べる給食は、寂しい気もしますが、しっかり味わうことや咀嚼を意識する等、プラスの側面もあるはずです。子供たちが健全な心身を培い、豊かな人間性を育んでいけるよう、今後も工夫しながら食育に取り組んでまいります。

道徳授業地区公開講座について

道徳主任　坂井　万里

９月１０日（土）に道徳授業地区公開講座を開催し、教室での授業参観後、学年ごとの協議会をおこないました。御多用の中、御来校および協議会に御参加くださいました保護者の皆様、どうもありがとうございました。

協議会では、授業の感想や、今後育てていきたい子供たちの姿について多数の御意見をいただきました。どの学年も、自分の考えを言えるようになってほしいとういこと。また、多様な考えを受け入れられるようになってほしいということが、共通していたと思います。

道徳の授業は、「自分の答え」を見いだす時間、または「今の自分の現状を振り返る」時間ともいえます。子供たちが教材に出てくる主人公の気持ちを考えたり、自分の心と向き合ったり、また、友達と考えを伝え合ったりすることで、物事を多面的・多角的に考え、取り組んでいけるようにしていきます。また、より一層、自分の考えを深め、これからの自分の生き方を考えるきっかけになるよう努めてまいります。